

# 災害に備え「白い小箱」導入

## 四日市・海星中高校

【四日市】四日市市追分一丁目の海星中学・高等学校(下村和之校長)は九、十日の両日、一般社団法人「日本非常食推進機構」(吉谷賢治代表理事)が推



「白い小箱」を納品する「みのり工房」の利用者たち＝四日市市追分1丁目の海星中学・高校で

進する災害用備蓄品「白い小箱」の全生徒、職員八百人分を導入した。同校では東日本大震災以前から、危機管理室や防災倉庫を設置するなどして防災力の向上に努めている。生徒個人の防災意識をさらに高め、いざというときに

備えようと白い小箱も納入することにした。

小箱の箱詰めや納品作業は、近郊の障害者施設に委託されており、障害者の就労支援にも一役買っている。九日には市内の「わかたけの里・らふかっ」と「四季の里・みのり工房」の利用者ら六人が同校へ納品した。

小箱に納入されているのは、水や缶詰、パン、水砂糖、簡易トイレなど七点。下村校長は「生徒たちが防災への意識を忘れないよう啓発していきたい」と話していた。